

総特集

卒業の日に



商学部 柿元理榮

法学部 竹平道郎

法学部 野倉早奈恵

学生記者卒業トーク

私ノートと取材メモ

ボランティア&資格

出しやすいのがボランティアなのかな。

竹平 僕はいろいろな手を出したけど、試行錯誤の連続だった。まず大学に入って半年間、何もなかったなあ。それで少し落ち込んだりして、なにか始めようと思って1年の学祭の頃に学生記者を始めて、インタビューなども初めて経験し、だんだん楽しくなってきた。2年の5月くらいにはボランティアを始めたけど、あの頃はまだNPOをやってる人たちのマインドもあまりよく分かってなかったな。

野倉 私もNPOのゼミに入っていて、いろんな人がゲストできて話を聞くのは楽しかった。活動自体というよりNPOの人の話を聞くのが目的でこのゼミに入った感じなのね。

柿元 私は気がついたらNPOに入ってた。「レクリエーションナリケット協会」という団体。掃除をしましょうとか、献血お願いしますとかそういうボランティアじゃなくて、ナリケットを広めるというNPO(笑)。

野倉 何かやんなきゃって思い始めるのが2年の初めで、それで手

竹平 企業じゃ手が出しにくいし、NPOだったら関わりやすい。

柿元 友達でも本当に真剣にやってる子もいるしね。それに、資格のこと。昔の頃は意気がつて実力主義だと。大学で何やってきたかが反映されるし資格なんかいらないうとか思ってたけど、現実に簿記の試験が迫ってきたりして、やっぱり持てるものは持ってた方がいいかなと。

野倉 私は何にも持ってません。運転免許だけです。学生の何かしなきゃいけないっていう意識の反映で、自分たちはなんか始めなきゃいけないと思って学生記者をやったけど、そういうのが見つからなかった人は資格に走る。

竹平 でも資格をとったからって即座に仕事につけるわけじゃないし、資格がなくて専門職でしっかりやってる人は沢山いる。

柿元 でも形に残るものが欲しいっていうのはある。

野倉 就活して思ったけど、手帳はブランド物はいけない、中大の手帳でさえもダメとか、スーツの色は

学生記者として

蓮池薫さん取材

阿部慎之助・源純夏：

黒じやなきやとかいろいろ「心得」があっただけ、終わってみると全然関係ない、なーんだ全部迷信じゃんて感じだった。すごく頭を悩ませて、資格も何か持っていたほうがいいと思ってたけど、あまり関係ないのじゃないのかな。もちろん、司法試験や公認会計士などは、ぜんぜん別です。

竹平 就活では結局、面接で何を言えるか、自分のやりたいこととそこの会社の仕事の内容が合ってるか、そこが大切だというのが経験的実感だね。

野倉 結果として時間に追われて学生として楽しめることを楽しんでない、という気がする。学祭でゼミの出し物があったけど、本当は3年生が中心でやるはずだったのに、昨年はなぜか4年が中心になった。3年が次の代に伝えていくっていう感じだったのに、3年はみんな塾とか勉強とかで忙しくて。学生として楽しむべきところを楽しんでない。

私事ですが：

柿元 2年のとき、オーストラリアのクリケット合宿に参加してクリ

ケットの楽しさが分かって、それから日本代表を目指す日々でした。6カ月くらい代表候補でやってたけど売り込むのが苦手で最初の頃はいつも端っこにいて全然アピールとかできなかった。最後はさすがにアピールしないやばいと思ってね、男子相手のラストの試合では控えだったけど、一人負傷したので代打に出て女子のなかでは一番打てた。みんな点を取れなかったんだけど、一人だけ9点。代表にはなれなかったけれど、自分では満足している。

野倉 そこまで行ったのは立派なもんじやない。私もクリケットをやるうかな思ってたけど、ちよつと顔つつこんで、無理でしたーって(笑)。そういう意味では、私は中途半端で。ゼミの先生にも器用貧乏って言われた。いろんなことやるけど、どれも身になってないね君は、つて(笑)。

竹平 大学時代を通して何かをやりたいって、という点では、おれも今はまだ中途半端でした。

柿元 なんでもやればできるものだけど、ものにするのは難しい、ということでしょうか、まとめると。

野倉 『Hakumonちゅうおう』の学生記者をして、親と対等に話せるようになった、そんな気がする。高校のときは親と一緒に暮らしてたからやることなすこと親が全部把握してる感じだったけど、上京してからの大学生活を親は知らない。学生記者のことも、親には最初はなんだまた変なことに首をつつこんで、といわれてたけど、いろんな人に会ってこんなことがあったとか話したら、少し大人になったな、一人暮らしさせてよかったよといわれた。お父さんに教えてあげるんだくらいの勢いで、親に興味を持たせられるような話題をもてるようになったのはよかったです、と思うよ。

柿元 クリケットの前は学生記者をメインにして、韓国にも取材に行った。亡くなられた教授(元理工学部長、故吉田正昭先生)のゼミのOB会が、先生の本を韓国へ贈呈しようということになって、その贈呈式に記者としてついていった。それ以来、年一回そのゼミのOB会に出ています。

野倉 蓮池さん来校(03年3月)は就職活動の最中だったけど、あれは食いつかずにはいられなかった。これは取材しなければ……みたいな。

柿元 そんなネタだったのに私はクリケットの選考時期と重なって参加できなかった。その頃が学生記者やってなくて、もったいなかった。

野倉 これがニュースの渦中にあるということか、みたいなね。報道各社が殺到して、多摩キャンパスがジャーナリズムの現場だった。

竹平 蓮池さん取材という、あれだけ大きな事件に関われたというのは大きかった。

野倉 あれは、運だなどか思った。同時に、私は取材で走りまわってる自分にカッコ悪さを感じた。報道陣をかきわけて聞かなきや聞かなきや、みたいに。あなた中大の学生ですよ、ね？

柿元 あの時竹平君の写真もよかったですよね。トップに使ったやつ。ちょうど1枚だけ、蓮池さんが明る

い顔しているいいのがあった、って聞いたけど。

竹平 数撃ちや当たるで、1枚だけ。あとはピンボケも混じっていたり。起死回生の一枚でした。

柿元 水泳の源純夏さん(02年秋季特別号)、巨人の阿部慎之助選手(03年春季号)の取材もできたのも感激。あれは野倉さんと一緒に。阿部選手とはぜひ、キャッチボールをしたかったのだけれど。

野倉 源さんもかつこよかったね。やっぱりメダル取ってくるだけのこととはあるな、と。言ってることにやたら感激して記事まで感激文になっちゃってダメ出しされたけど。

柿元 源さんはその後テレビ朝日を辞めて帰郷(徳島県)。そのことにも驚きました。

野倉 あれだけの人だから、地元引っこんじやうのはもつたないない気がする。私は旦那の器量の狭さを憎んだね。

柿元 そういう理由なのかな？
女の人は結婚と仕事だったら結婚をとるのかな。

野倉 でもすごい悩んだんだろうね。テレビ朝で報道をという夢もあつ

たのに、あのタイミングで引っこむのはすごい悔しいと思う。自分が源純夏の立場だったらどうする？

柿元 私も……結婚かな。

竹平 聞いていいかな？ 野倉さんはなんで新聞記者になろうと思つたの？ おれは学生記者やって、新聞記者として仕事するのは無理だなんて思つたんだけど(笑)。

野倉 なんてだろう、首の突っ込みたがり屋なんだよ。事件でもケンカでもささいなことでも首をつっこんでまあまあまああつてやりたいの。それが高じたんじやないのかな。

竹平 取材するより取材される側になりたいって、おれは思うようになつたけど(笑)。

野倉 私は自分の書いたものに対して反響が来るのがうれしいから。友達とかにあの時どうだったの？

て聞かれたときに、それはね、とか、あの事件は実はね、とか。反響がうれしいから、記者がいいなって。

竹平 ラトビアから来た留学生の女性を取材(02年夏季号)したときに、日本の学生は遊んでいるといわれて、それはそうなんだけど、ちよつとしつくり来ないことがあつた。そ

うかもしれないけど、それだけじゃないぞと。

野倉 一般化されると少し……つていうのはあるよね。

竹平 もっと印象的だったのは、日本人は話す相手の年齢や立場を気にするけど、ラトビアの人は大人や子どもっていう立場より相手の話す内容や考え方を気にするつていわれて、そこが考えられた。インタビューで最初に学部と名前、出身国……と聞いたのは間違いだつたかな、と。このへんのところは記事に書いてなくて、脱稿した後書けばよかつたと気付いた。

柿元 でもそれは日本だけじゃないよね。私も大久保駅で韓国人と日本人のカメラマンが酔っ払った人を助けた事件で追悼セレモニーの取材に行った。主催者が中大の出身の韓国人で、韓国人は身分的なものを大切にするとつていた。それから最近の中大生は遊びすぎてるつてずいぶん説教されたのを覚えている。

中大の4年間

竹平 大学生生活を一言でいえば、おれの場合は「荒波」。人が多くて、

もまれてた。3、4年になつてようやく過ごし方を見つけた感じだつた。

野倉 私は、終始のーんびり、のーんびりつて感じ。四谷の大学に行つたとかいつてるけど、私は生協でのーんびり食べるのが一番幸せだし、そこでぼーつと自然がきれいだねとか紅葉がいいねとかのーんびりつてるのが好き。

柿元 私は学生記者やクリケットをやつてなかつたら、山の中から大学も全然来てなかつただろうし、母校愛もなかつたかもしれない。学生記者で大学につなぎとめられてた。もし学生記者をしなくてどこの大行つてますか？ つて聞かれたらクリケット大ですつて答えてたかもしれない(笑)。学生記者やつてたから中大です、大学大好きつて見える。

〈これから〉

柿元 国家試験めざして本腰

竹平 I T 関連社「シンカーミク

セル」社員に(東京)

野倉 読売新聞記者に(東京本社)